



東京原油4%安 サウジ・UAE合意報道で

東京商品取引所の原油先物が大幅に下落した。取引の中心となる期先物の15日の清算値は1キロリットル4万6900円で、前日に比べ1940円（4%）安い。石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟国で構成する「OPECプラス」の協調減産を巡り、対立していたサウジアラビアとアラブ首長国連邦（UAE）が合意したとロイター通信が報じたことが手掛かりとなった。

OPECプラスを巡っては、協調減産を2022年末まで続ける案にUAEが反対し、5日に協議が決裂していた。今年8月以降の増産も決まらず、需給の逼迫感が強まるとの観測が生じていた。だが、サウジとUAEの合意報道を受け、逼迫懸念が和らいだ。

14日の米国市場でWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物が3%安で取引を終えたこともあり、15日の東京市場も売りが優勢となった。



世界の石油需要、来年はコロナ前の水準に回復へ OPEC予想

〔ロンドン 15日 ロイター〕 - 石油輸出国機構（OPEC）は15日、来年の世界の石油需要が米国や中国、インドの伸びにけん引される形で新型コロナウイルス禍前と同様の水準に回復するという見通しを示した。

月報では、2022年の石油需要が3.4%増の日量9986万バレルとなり、年後半には平均で同1億バレルを超えると試算。「22年の世界経済の成長には確固たる期待が寄せられており、とりわけ新興国や途上国における新型コロナ感染の改善に伴い、石油需要はコロナ前の水準に達すると予想される」と述べた。

21年の需要は引き続き同595万バレルの増加を見込む。

OPECは、中国とインドの石油需要が来年、コロナ前の水準を超えると予想。また、米国の石油使用量は19年の水準をわずかながら下回るものの、なお22年の需要増に最も貢献すると指摘した。

世界経済の成長率は今年の5.5%から来年は4.1%に減速するもようだが、依然として各国の景気刺激策に支えられており、見通しは「主にコロナ関連の動向に左右される」とした。



トウモロコシ高、段ボールに痛手 接着剤にコーンスターチ コスト増、年10億円超も

段ボールに、高騰するトウモロコシ価格の影響が波及し始めた。段ボールを張り合わせる接着剤はコーンスターチから作るためだ。生産コストに占める接着剤の割合は小さいが、足元の調達価格は過去例がない上昇幅で決着。業界全体で10億円単位でコストが増える可能性がある。原価の大半を占める古紙と燃料代が上がる中での追い打ちで、段ボールメーカーの収益を圧迫しそうだ。

「ボディーブローのように効いている」。段ボールメーカーの購買担当者はトウモロコシの米国の先物価格の高騰を嘆く。指標のシカゴ先物（期近）は5月に1ブッシェル7ドル台後半と終値で8年7カ月ぶりの高値を記録。足元でも同6.8ドル前後と前年同期比でなお2倍だ。中国の大量調達と、主産国の米国やブラジルでの天候不順で供給が減るとの観測が背景にある。

あるコーンスターチメーカーによれば、国際価格の高騰を受け、段ボールメーカーとの6月の価格交渉は1キロ10円（15%）程度の値上げで決着した。値上げはおおよそ2年半ぶり。紙商社は「一度にここまでの上昇幅は過去なかったのではないかと驚く。既に秋の追加値上げに向け交渉が始まっており、今後同業他社も追随しそうだという。

段ボールシートは表面と裏面の外装用ライナーと、間の波形の中しんを貼り合わせて作る。接着時に使うのがコーンスターチのりだ。

段ボール1平方メートルあたりに使うコーンスターチのりは8～10グラム程度とされ、「段ボールシートの生産コストに占める割合は1%程度」（紙商社）にすぎない。それでも今のシカゴ相場水準が続けば「業界全体で年間10億～20億円以上のコスト増も不思議ではない」（段ボールメーカー）。

接着剤の値上がりに段ボールメーカーが苦渋するのは、段ボールシートの販売価格が動かない中で生産コストの大部分を占める古紙や燃料も値上がりしつつあるからだ。

段ボール原紙の荷動きは好調だ。日本製紙連合会（東京・中央）によると、1～5月の国内出荷量は工業製品向けを中心に前年同期比3.7%増。輸出も同44.9%増と大幅に伸びている。

それでも段ボールシートの指標品種の国内取引価格は1平方メートルあたり61～62円と2019年1月以来、横ばいが続く。「製品の差別化が難しい段ボールはメーカー間の価格競争が激しく、簡単に取引価格を動かせない」（業界関係者）

コストの大部分を占める古紙と燃料代も上昇傾向だ。古紙問屋が回収事業者から仕入れる段ボール古紙の買値は現在1キロ4～6円。5月に18年11月以来2年半ぶりに値上がりした。原油の国際価格も一時6年半ぶりの高値を付けた。いずれも先高観は強い。トウモロコシ高は小兵ながらも段ボールメーカーの収益を悪化させる手痛い伏兵となりそうだ。





大豆製品、原料高騰に悲鳴 国際価格5割高 秋に値上げ表明も

豆腐や油揚げなど大豆製品メーカーが値上げに向けて動き始めた。原料となる大豆の国際価格が1年前より5割以上高いうえ、日本市場で一般的な遺伝子非組み換え品の調達コストも増しており、採算が悪化している。業界団体は近く14年ぶりに流通小売団体に対して窮状を訴える文書を出す予定で、秋以降に大豆製品の値上げ表明が相次ぐ可能性がある。

「原料高は業界全体の課題だ」。全国の豆腐メーカーで構成する日本豆腐協会（東京・千代田）の町田秀信専務理事の危機感は強い。業界には中小零細企業も多く、コスト増は経営問題に直結するためだ。

同協会が6月に実施した会員24社へのアンケート調査では、原材料費は2019年5月時点と比べて平均13%上昇。21年度の対策では、既に6社が「納品価格を値上げした」と回答した。上げ幅は「10%」が4社で最多だった。

大手の大豆製品メーカーも動き始めた。昭和産業と日清オイリオグループは6月、7月1日納入分からハンバーグなどの原料の一部に使う大豆たんぱく製品を1キロ30円以上引き上げると表明した。

旭松食品もこうや豆腐を9月1日出荷分から5~8%引き上げると発表した。値上げ表明は2014年以来で「企業努力だけでコスト上昇分を吸収するのは非常に厳しい」と話す。大手納豆メーカーも「値上げも選択肢の1つとして検討している」と打ち明ける。

日本豆腐協会は近く、全国豆腐連合会（東京・台東）と連名で日本チェーンストア協会（東京・港）といった流通小売団体に文書で窮状を訴える予定だ。業界団体が連名で窮状を訴えるのは07年以来。まもなく本格化する秋冬の新商品展開に向けた各社の交渉を側面支援する狙いだ。

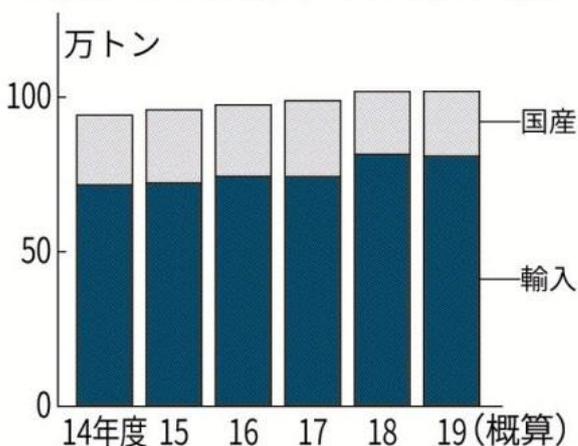
値上げ機運が高まる背景には、大豆価格の高騰がある。国際指標である米シカゴ商品取引所の大豆先物（期近）は現在1ブッシェル14ドル前後。上昇が始まった昨夏に比べ5~6割高い。5月中旬には16.6ドルと8年8カ月ぶりの高値を付けた。中国の旺盛な需要と投機資金などが相場を押し上げた。

農林水産省によると、国内の食用大豆需要量の8割を輸入品でまかなう。大豆の国際相場の動向が大豆製品の原価に直結する。

輸入大豆のうち米国産が6~7割を占める。米国では栽培面積の94~95%が遺伝子組み換え大豆だ。害虫や除草剤に強く、栽培しやすいためだ。ただ、日本の食品企業は遺伝子非組み換え大豆を選ぶため、シカゴ相場に割増金（プレミアム）を上乗せして米農家から非組み換え大豆を購入している。割増金は長年上昇傾向にあるが、シカゴ相場の高騰で割増金も足元では前年同期比で4~5割ほど高くなっているという。

海上運賃や容器代も上昇しており、大豆製品各社は製品価格への転嫁について流通小売各社に理解を求めていくことになりそうだ。

食用大豆の需要量は増加基調



大豆価格は昨夏から急上昇した





ウメモト インフォメーション



2021年 7 月 16 日 担当 小松

酢酸とその誘導体市場が活況を呈している。2020年は新型コロナウイルスの影響で需要が落ち込んだが、21年に入り状況が一変している。需要の回復に加えて、米国での寒波によるサプライチェーンの混乱で需給がタイト化し、アジア市況が最高値を更新したのもある。このため各社、製品の安定供給と事業継続に向けた価格是正に取り組んでいる。また、ポリビニルアルコール（PVA）といった高機能樹脂は、安価な中国品の台頭で市場環境は厳しさを増しており、付加価値品の拡販など差別化戦略を進めている。

酢酸



酢酸エチル



酢酸

コロナ禍から

一転、需給タイト

VAM

	生産・内需（用途別）・輸出推移				前年比
	2017年	2018年	2019年	2020年	
生産	663,420	640,839	605,521	515,813	85.2
内需	603,410	564,226	518,316	449,265	86.7
用途別					
ポパール	425,577	398,083	382,777	314,050	82.0
接着剤	82,260	74,957	49,697	43,504	87.5
ガムベース	0	0	0	0	-
塩ビ・コーポリ	1,668	1,512	1,731	1,778	102.7
EVA	88,600	84,668	81,018	86,789	107.1
その他	5,305	5,006	3,093	3,144	101.6
輸出	65,750	74,614	81,563	65,975	80.9

(単位：千t) (酢ビ・ポパール工業会)

EVA



PVA

	生産・内需（用途別）・輸出推移				前年比
	2017年	2018年	2019年	2020年	
生産	227,708	208,930	203,419	173,111	85.1
内需	125,596	124,534	123,654	112,721	91.2
用途別					
ビニロン	63,602	62,489	63,056	52,309	83.0
繊維	2,788	2,498	2,407	1,940	80.6
製紙	13,047	12,872	10,739	9,120	84.9
フィルム	4,459	4,726	5,392	5,986	111.0
接着剤	22,658	23,108	22,584	23,425	103.7
その他	19,042	18,841	19,476	19,941	102.4
輸出	92,960	83,914	76,723	74,669	97.3

(単位：千t) (酢ビ・ポパール工業会)